

龍源寺報

令和7年（2025年）春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹	正福寺住職 松原行樹
TEL 03-3451-1853	FAX 03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号 108-0073）

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

春彼岸におもむ

龍源寺住職 松原信樹

私たちが、本を読んだり、勉強をしようとするときは、誰にも邪魔されないように部屋に閉じこもったり、図書館で静かに集中したりするように、一人になる時間と場所を必要とします。それは、世の中の動きに引きずり回されることをやめて、改めて自己を見直し、他者との関わり合いを考え直し、思いを馳せようとする大切な時間でもあります。

人間は孤独な存在です。この事実は、正しく受け止めていきたいと思っています。例えば、事業を興すときなどは、難しい問題に、のたうち回りながら、耐えて乗り越えなければならぬ山がいくつもあります。現実の世界という葛藤や矛盾に充ちた世界で、孤独であることを嫌い、他者と表面的に美しく、華やかに交流しても、排除、裏切りが他者との連携という名の影で暗躍していることが多いことに気づかれます。また、学問、芸術を志し、本質を追究したため、他者から黙殺され、いっそ孤独になるということもあります。多数決によって判断され、しかも、多くの人々がひしめく中で、批判に耐えながらも、自分の道はこれだとして、自己を確立していかなければなりません。だからこそ、自己を見つめる時間を大切にしたいのです。

曹洞宗の開祖である、道元禪師（一一〇〇～一二五三）の言葉の中に、「自己をならうというは、自己をわするるなり」（『正法眼蔵』）とあります。自己をならうこととは、自己へのとらわれを忘れることです。これは、無心こそが真実と向きあうことだとも受け取れます。修行に裏打ちされた道元禪師の言葉から仏道の本質がみえてきます。

道元禪師の生きた鎌倉時代から、時を超え、私たちは、現代に生きています。決して、山の中の禅寺や修行道場、悟りからの言葉ではなく、現実の体験的なこととして、私たちの心の中に自分と向きあう余裕をもち、悩んだときには、そこにたえず立ち帰って、自己をみつめる時間をもちたいものです。

先日、京都へ一人で出かけました。京都には、素晴らしい寺院がたくさんあります。その伽藍や庭園をみれば、誰もが、清々しい思いをするのではないでしょうか。私たちの心の奥底にある綺麗な心と、伽藍や庭園が孤独の中で響き合う体験を、つかの間の時間とはいえ体感できたような気がしました。私にとって京都一人旅は、自己を見つめる機会になったし、新鮮な味わいを再確認することができた時間でした。私にとつては、一人旅でしたが、皆さんにも、きっとそのような時間があると思います。臨濟宗では、坐禅をしますが、どんなことでもいい、余裕をもって、自分と向きあう時間というものを作っていききたいと思っています。

ご寄付

金 百万円 東秀紀殿

金 百万円 東芳子殿

金 百万円 東由佳理殿

金 五十万円 匿名殿

金 五十万円 匿名殿

ほうぎょついでんとう

宝篋印塔 豊前屋庭石店

かんのんさまに

金 一万円 土岐孝殿

ありがとうございました

春彼岸会

一、三月二十日（木曜日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

●南北線。白金高輪駅下車。徒歩五分。

2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり。

〈都バス〉

●田87 渋谷駅―田町駅 魚籃坂下下車ぎよらん

●都06 渋谷駅―新橋駅 古川橋下車

●品97 品川駅―新宿駅西口 魚籃坂下・古川橋下車ぎよらん

●反96 五反田駅―品川駅―六本木ヒルズ（循環）
魚籃坂下・古川橋下車ぎよらん

〈東急バス〉

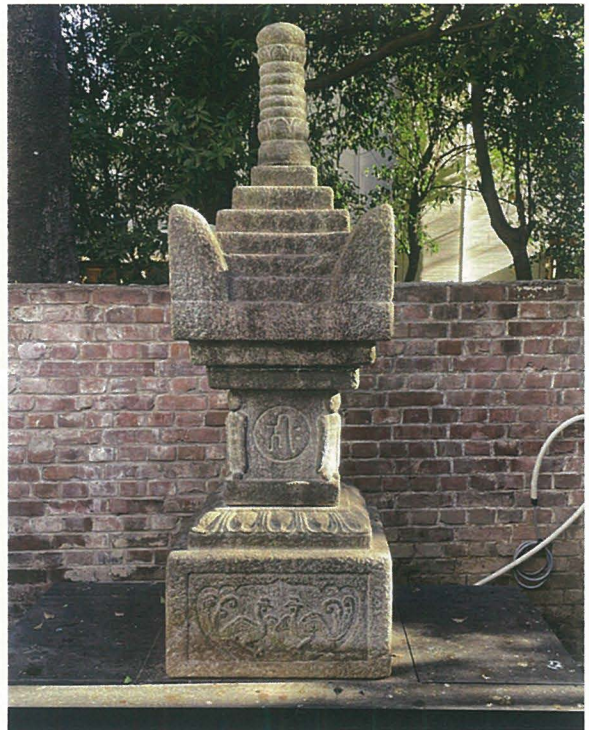
●東98 東京駅南口―等々力操車場 魚籃坂下下車ぎよらん

「水月堂」の様子



水月堂内部正面

※水月堂とは、江戸期に龍源寺境内に
実在したお堂の名称です。



水月堂玄関左側 宝篋印塔(寄贈 豊前屋庭石店)



Instagram を始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。皆さまフォローよろしくお願いします。

柳 緑

春のお彼岸を迎えます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。納骨堂の建築工事も

花 紅

終わりを、検査などの手続きを行ってまいります。昨今、

夏の暑さが厳しいので、納骨堂のお披露目は、秋の涼しくなった頃を目指しています。バリアフリーで設計していきますので、皆さま、ご安心ください。

▼大変貴重なご寄付をありがとうございます。納骨堂はじめ、龍源寺の護持の為に、大切に使用させて頂きます。豊前屋庭石店さんからは、宝篋印塔ほうきょういんとうをご寄付いただきました。如意輪観音の梵字が刻まれた立派な塔です。納骨堂の合祀墓の供養塔として、永年に祀らせていただきます。▼今、原稿を書いているのは、二月二十四日。境内の梅の花が綺麗に咲いています。境内の梅は、兄が亡くなった時に父・哲明が植えたものです。悲しみの中で植えた梅が今年も春の知らせをくれました。今年、泰道和尚と志ずの十七回忌です。時の経つのは早いものです。▼龍源寺

開創三五十年の後の更なる未来に向け、計画内容を見直しながら、有用な整備を続ける所存でございます。借地の整備などまだまだ、龍源寺には、長期的に取り組むべき問題があります。皆様におかれましては、今後とも、物心両面にお支え下さいますよう、心よりお願い申し上げます。未熟者ですが宜しくお願い申し上げます。▼年末年始から、ほとんど、休みなく二月を終えます。体調に気をつけながら日々過ごしていきたいと思えます。娘の冬休みに、家族旅行ができなかったことは、反省しなければなりません。今は春休みの計画をしています。龍源寺以外の仕事としては、本山の委員会にて、臨済宗の回向文の訳注を花園大学国際禅学研究所に提出致しました。また、東京教区の住職研修会に関連する仕事をしています。オンライン講座などもあり、仏教以外の勉強をしながら過ごしています。北軽井沢・日月庵坐禅堂での坐禅会も計画しています。娘の瑞樹は、今年三年生になります。算数の

かけ算を一生懸命勉強しています。寢室の天井に九九を紙に書いて張って覚えしました。家内の亜矢さんは、お寺の仕事、会社の仕事、学校のことなどで、忙しくしています。年齢とともに、長いフライトはきつくなってきているようですが、頑張っています。今年八十になる母は、朝、出勤する人々の前に歩道を綺麗にお掃除をしてくれています。女性陣が頑張ってくれているので、大変ありがたいことです。おかげさまで、寺族一同、元気に過ごさせて頂いております。今月は雨が降る日が少なく、乾燥する日が続きますが、今後とも、境内の緑を少しでも増やしていきたいと思えます。▼以前、法要後の御齋で配膳いただいたきながら、コロナ禍で閉店した「秀」さんがお店を再開いたしました。法要後の御齋にご利用ください。03-3787-0130▼三月二十日午前十一時より春彼岸会を行います。どうぞ、ご家族でお参りください。寺族一同お待ち申し上げます。

(信樹)